

経営比較分析表（令和4年度決算）

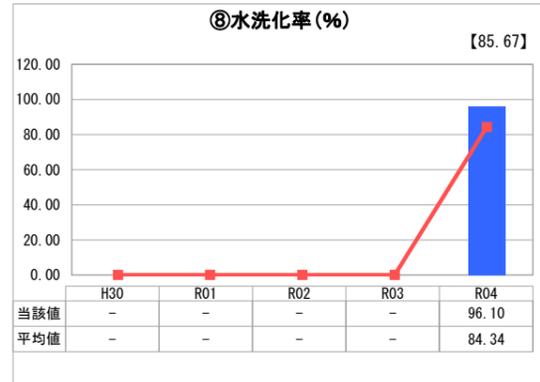
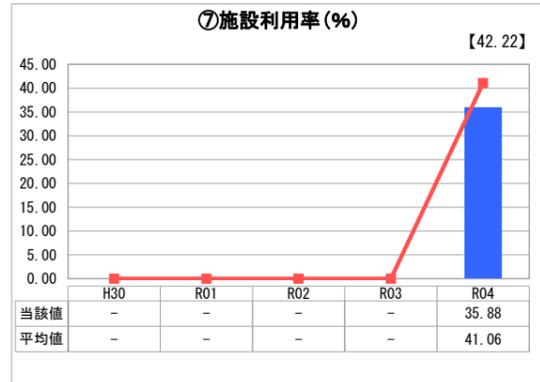
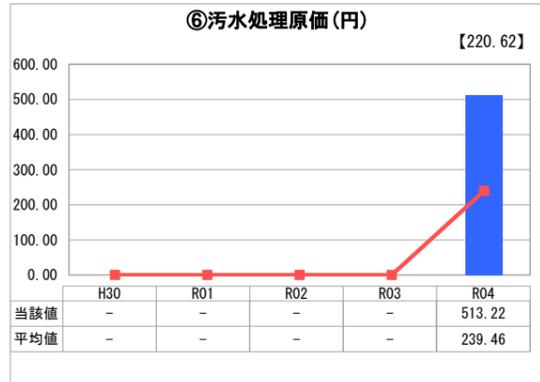
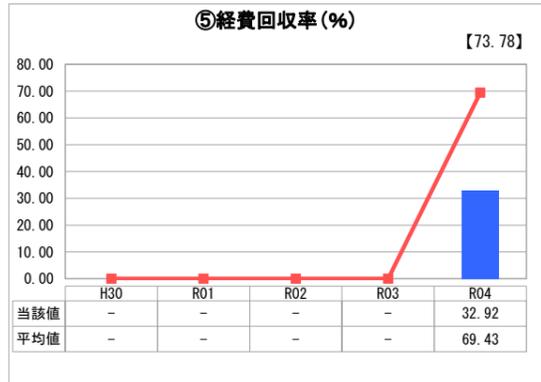
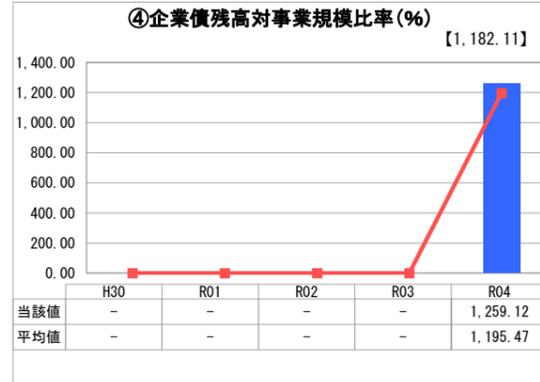
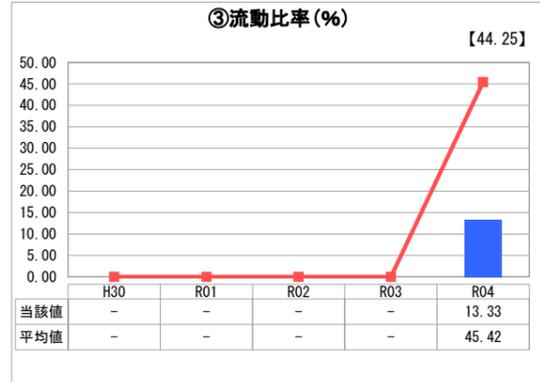
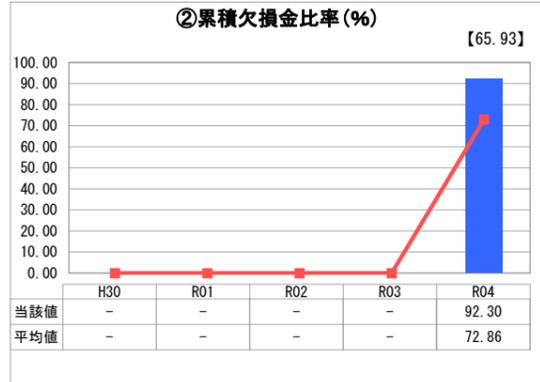
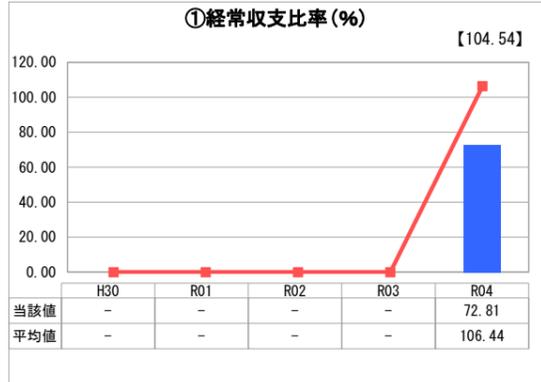
長野県 阿智村

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 78.60 | 49.72 | 82.47 | 3,278 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 6,055 | 214.43 | 28.24 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 2,998 | 1.34 | 2,237.31 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値(当該値) |
| — | 類似団体平均値(平均値) |
| 【 | 令和4年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

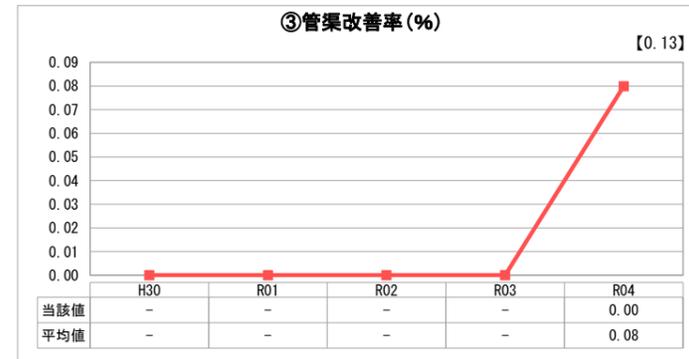
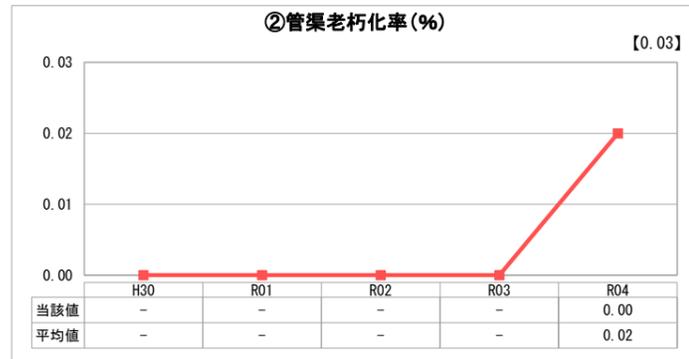
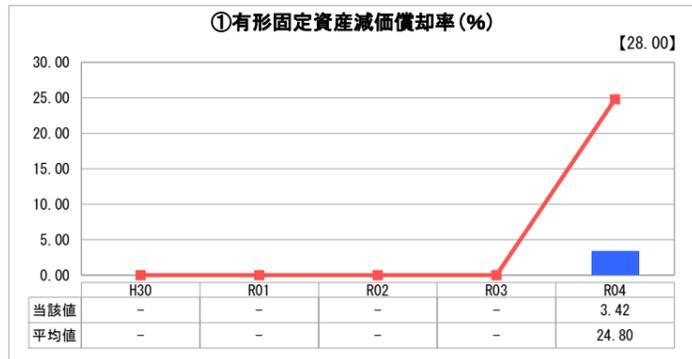
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：100%を下回っており、一般会計からの繰入金に頼っている現状です。料金改定も視野に入れつつ維持管理費の効率化などを行い、収支比率の改善を図ります。
 ② 累積欠損金比率：機器を省電力の物に更新するなどして維持管理のコストを押しさえ、改善を図っていきます。
 ③ 流動比率：13.33%と低い水準で一般会計からの繰入金や補助金頼みとなっています。
 ④ 企業債残高対事業規模比率：使用料収入だけでは維持管理費を賄うのが精一杯で、施設、機器の改修といった費用のかかる工事は今後も起債に頼らざるをえない状況です。
 ⑤ 経費回収率：内訳の61%は減価償却費で維持管理費については使用料でほぼ賄えています。将来的な施設改修については、起債や補助金を利用できれば可能です。
 ⑥ 汚水処理原価：ストックマネジメント計画に基づいて、効率的な施設・設備更新を行っていきます。
 ⑦ 施設利用率：徐々に回復しつつありますが、未だコロナ禍前の水準には戻っておらず、これには村の観光産業の影響が大きいと考えられます。
 ⑧ 水洗化率：水洗化率96.1%とほぼ区域内の水洗化が達成できています。残りの4%についても接続推進を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

R5にはストックマネジメント計画の策定が完了し、今後は計画に基づき随時更新を実施していく予定です。ストックマネジメント計画についても5年毎に見直しを行っていく予定です。

2. 老朽化の状況



全体総括

R4より公営企業会計へと移行しました。物価高騰による維持管理費の増加に加え、人口減少による収益の減少や昨今の異常気象による豪雨災害への対策など課題が懸念されますが、経営戦略の見直しによる経営の健全化やストックマネジメント計画に基づく計画的な更新工事を行うことで対応し、持続可能な下水道事業経営を行っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。